

人を対象とする生命科学・医学系研究
「眼内悪性リンパ腫に対する全身化学療法の有効性・安全性を検証する
後方視的解析」についてのお知らせ

眼内悪性リンパ腫は比較的稀な疾患(約0.2人/100万人)ですが、中枢神経系浸潤(頭蓋内など)や再発が多く(60-70%程度)眼内の局所治療に加えて大量メソトレキセート療法をベースにした中枢神経系へ移行できる薬剤による化学療法を行い、中枢神経系再発を予防する必要があります。近年の本邦単一施設からの報告では、中枢神経系原発悪性リンパ腫に頻用されるR-MPV療法(リツキシマブ、メソトレキセート、プロカルバジン、及びピンクリスチン)に加え、全脳放射線照射、そして大量シタラピン療法を行い、再発率を23.5%(眼内・中枢神経含め)まで低下させることができました。しかしながら眼内悪性リンパ腫に対する最適な中枢神経系再発に対する予防法ははっきりとしていません。また放射線治療を行うと高率に白質脳症の発症の懸念があり、特に高齢者では治療後の認知機能低下が臨床上的重要な問題となります。

当科は眼科と連携し比較的多数例の眼内悪性リンパ腫症例の治療にあたっております。近年はR-MPV療法を5コース行うことを標準的な治療と考えております。そこで当院における眼内悪性リンパ腫に対する治療効果・有害事象を後方視的に評価し、適切な治療法を確立するための検討を行うこととしました。この結果によって眼内悪性リンパ腫の治療方針決定における重要な知見が発見されると考えております。

この研究は、広島大学疫学研究倫理審査委員会の審査を受けて実施されています。もし、このポスターを読まれ、この研究にあなたの診療情報を利用されることをご希望されない場合、以下に記載の研究責任者までご連絡ください。もし、そのようにご連絡いただいた場合でも、あなたに診療上の不利益が生じることは決してありません。

●研究対象者選定(登録)基準:

以下の期間に広島大学病院眼科・血液内科にて眼内悪性リンパ腫に対して化学療法を開始された患者さん。選定期間: 2013年1月1日 ~ 2023年10月31日

●研究期間 2023年 月 日(実施許可日)~2025年9月30日

●収集する情報(すべて診療記録から収集いたします)。

年齢、性別、身長、体重、診断日、病期(片側もしくは両側眼病変など)、中枢神経病変の有無、白血球数(分画含)、ヘモグロビン値、血小板数、既往歴(高血圧症、糖尿病、高脂血症など)、総コレステロール、LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、血糖値、HbA1c、総蛋白、アルブミン、IL-10、IL-6、MTX投与量(mg/m²)、化学療法サイクル数、自家末梢血幹細胞移植の有無(あればその詳細)、全脳照射の有無(及び投与量)。血液学的、非血液学的合併症。病理学的所見、細胞診所見、フローサイトメトリー所見。

●利用開始予定日:実施許可日以降

氏名や住所など、個人が特定できる情報は収集せず、誰のものか分からないよう加工したデータを研究に使用します。

研究責任者氏名: 一戸 辰夫

連絡先: nohe@hiroshima-u.ac.jp

所属名: 広島大学病院 血液内科

082-257-5858